

平成 29 年 9 月 6 日

千葉木鶏クラブ

(385 回 例会)

# 「道」と「法」

旺盛な太陽も次第に衰え、暑熱も退くと言う意の処暑は、天地清く爽やかな季節を迎え暑さも鎮まって心地よい。

今回は、「道と法」と題して、人がより善く生きる「道」と国家統治において人が従うルールとしての「法」について、安岡正篤先生から凛凛とした含蓄のある講義をお聞きます。

どなたでもいつでも歓迎の千葉木鶏クラブです。

皆様のお越しをお待ちしています。

## 記

1. 日 時 : 平成 29 年 9 月 27 日 (水)  
PM 16 時 00 分 ~18 時 00 分
2. 場 所 : 千葉市生涯学習センター 小会議室 (3 F)  
電話 : 043-207-5811  
<交通案内> JR 千葉駅東口から徒歩 8 分
3. 会 費 : 1000 円
4. 演 題 : 「道」と「法」
5. 講 師 : 安岡正篤先生 (テープにて拝聴)
6. 内 容



正義の女神「テーミス」像

- ・ 道は三綱 (君臣・父子・夫婦)
- ・ 五常 (仁・義・礼・智・信)
- ・ 五行 (木・火・水・土・金・水)

千葉木鶏クラブ 代表兼事務局 丸島 忠夫 Email : [marushima\\_t@snow.plala.or.jp](mailto:marushima_t@snow.plala.or.jp)

Tel : [0475-25-1211](tel:0475-25-1211)

## 「道」と「法」

### 来書略（向こうからの手紙）

政令法度は人情を良く知りて、時処位に応ずるものなりと承り候、尤（もっと）もの儀に候。

昔たまたま道を以って政をせんとおぼしめしたる君もおわしまししかと、時の学者唐流を以って日本に行わんとせしかば、つかえとどこおる所おおく、やめ給いぬとうけ給わり候。おしき事にて候。

### 返書略

- ・ 道と法とは別なるものにて候を、心得ちがいて、法を道と覚えたるあやま候。
- ・ 法は、中国の聖人といえども代々（よよ）に替り候。況（いわん）や日本へ移しては、行いがたき事多く候。
- ・ 道は三綱（君臣・父子・夫婦）五常（仁・義・礼・智・信）これなり。
- ・ 天地人に配し、五行（木・火・水・土・金・水という東洋の民衆的思考律）に配す。
- ・ いまだ徳の名なく、聖人の教え無かりし時も、此の道は既に行われたり。
- ・ いまだ人生ぜざりし時も、天地に行われ、いまだ天地わかれざりし時も、太虚（宇宙）に行わる。
- ・ 人倫天地無に帰すといえ共、亡ぶることなし。況や後世をや。
- ・ 法は聖人時処位に応じて、事の宜しきを制作し給えり。故に其の代にありては道に配す。
- ・ 時去り。人位（人の地位）かわりぬれば、聖法といえども用いがたきものあり。
- ・ 不合を行う時は、却りて道に害あり。
- ・ 今の学者の道とし行うは、多くは法なり。時処位の至善に叶わざれば、道にあらず。
- ・ 今の法に泥（なず）みたる（凝り固まった）学者は仁義をしらず。争心利害の凡情逞しく、只己（おの）が氣質の近きが為に、事を勤め法を用い、経学な人間の根本問題の学問の筋道）をいうを以って、道者なりとおもえり。
- ・ 世の中の人、此の徳あれば此の病（欠点）あり。
- ・ 寛仁なる生まれ付の者は、行事に非なる事あり。大意をみるものは、細行（さいこう）（細かいこと）を不願（かえりみず）。
- ・ 篤実なる者は、才知不足なり。作法よくつとめて、争心我慢なる者也。人にたかぶるを悦びて（自慢したくた）学を好む者あり。
- ・ 初めの三は徳に付いての病なり。後の二は凡心を根として外をよくする（外面を飾る）者也。然れども其（その）生まれ付き文理にさときか、事を勤むるに得たるかの処あればなり。（了）